

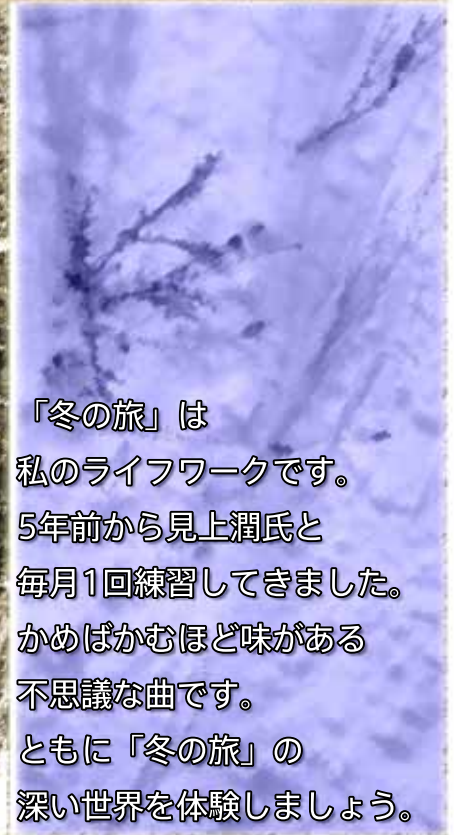
石の上にも5年

歌う公認会計士・長山宏と
哲学する音楽家・見上潤による
リサイタル

シューベルト「冬の旅」

長山 宏 (バリトン)

見上 潤 (ピアノ)



「冬の旅」は
私のライフワークです。
5年前から見上潤氏と
毎月1回練習してきました。
かめばかむほど味がある
不思議な曲です。
ともに「冬の旅」の
深い世界を体験しましょう。

Recital:

Franz Schubert "Winterreise"

Hiroshi Nagayama, baritone Jun Mikami, piano

2008年3月5日(水) 19:00開演

入場無料

ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京 アーティスト・サロン
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1丁目13-12 西新宿昭和ビル8階(新宿郵便局向かい)
Tel: 03-5909-1771

お問い合わせ: 070-6445-1360 (長山)



プロフィール

長山 宏 (バリトン)

大学1年のときに「一生の思い出に」と、ベートーヴェンの第九を歌う機会に恵まれ、歌にめざめる。30歳でサラリーマン失格の烙印を自ら押すとともに、公認会計士をめざし浪人になり、声楽を淡野弓子氏に師事。35歳のときに、アグネス・ギーベル女師のレッスンを受け「あなたのような美声はドイツにいない」とおだてられ木に登る。

「男性の先生につきなさい」という師の教えもあり、苦しんだ挙句、ルイジ・ダル・フィオール神父と出会い、歌のみならず、人生の師として多くを学ぶ。

魂で歌うことを学び、ソプラノ歌手の妻と、歌に満ちた生活をしていたが、2001年2月2日に最愛の妻が肺腺癌にて他界。そして同年6月19日にルイジ・ダル・フィオール神父も他界。2年間、歌を忘れたカナリヤであったが、見上潤氏と5年前から毎月「冬の旅」を練習することで歌に復帰し、多くの取引先でむりやり歌わせてもらっている。

見上 潤 (ピアノ)

1958年、東京は本郷の生まれ。少年時代は、高度経済成長下の科学万能主義の風のもと、学校の勉強そっちのけで化学・物理に入れ込む。中学1年のとき、ベートーヴェン第九のオーケストラスコアを見て、その得体の知れない記号体系を解読したいと思う。それ以来早朝の音楽室に忍び込んでピアノを独習。青年時代は、マルクス主義とクラシック音楽に強く惹かれ、サイエンスと音楽の間にある仕事をしようと決意。国立音楽大学声楽科を経て、同大学院作曲専攻を修了。アヴァンギャルドな作品を発表していたが、調性崩壊の原因究明へと関心を移し、音楽分析を専門とするに至る。2003年、オトゲノム理論を発表。

1993年、ルイジ・ダル・フィオール神父に出会い、音楽の官能的可能性に開眼する。長山宏氏とはここで同門となる。ドイツリートは、1983年より三上かーりん氏と共同研究を行っている。《冬の旅》の分析を、ブログ「メタボリック見上のシューベルト《冬の旅》毎日5分間！」(<http://geocities.yahoo.co.jp/gl/dolcecanto2003jp>)に連載中。

音楽分析学研究会、ドルチェカント研究会主宰。音楽理論研究会幹事。

秋川コーラス指揮者。上田学園講師（言語分析・哲学）。